

交通拠点（バス待合所）を兼ねた交流拠点に関する研究

バス待合所 交通拠点 交流拠点 空間形態 運営形態

20fa020 大場玲旺
指導教員 菅原大輔

1. 研究背景・目的

ある場所から他の場所への「移動」は日常生活において不可欠である。近年ではMaaS（※1）や新たな小型モビリティが登場し移動の利便性の向上が進められ、新たな交通手段とそれをつなぐ交通拠点は重要である。それゆえに待合や乗り換え等を行う交通拠点は重要であり、また人が集う場であることから、地域コミュニティをつくる交流拠点として十分な可能性を有しているといえる。また現在、日本は深刻な人口減少問題に直面しており、都心部の再生やコンパクト化がいわれ、社会が縮小化傾向にある。そうした背景に対しサービスや科学技術の向上だけでなく待合空間へのその他の機能の付加や人々を惹きつけるデザインなど、建築的な操作によって交通拠点が地域の中心となるのではないかと考える。本研究では交通拠点の機能や空間構成から拠点の「個別効果」と立地条件や路線、運営形態からそのネットワークによる拠点の「全体効果」を明らかにすることを目的とする。

2. 位置づけ

中山間地域においてバス交通は依然として生活路線であり必要不可欠である¹⁾ことからバス交通を対象とする。バス交通拠点は地域創生の重要な拠点と明記された文献は多いものの、既に行われている研究にはバス事業の維持・確保や利便性の向上のための交通整備に重点が置かれているものが多く、バス待合所をコミュニティ形成の拠点とし、その空間・運営のあり方について触れられている研究は少ない。本研究はバス待合所の交通拠点機能と交通以外のその他の機能との組み合わせについて比較分析を行い、空間構成と運営手法などの特徴とその有用性を明らかにする。また地域の課題背景から交通×交流拠点の創設に至った経緯とその運営形態を分析し、バス待合所が持つ地域の生活の拠り所としての新たなビルディングタイプの可能性を試みるものである。

3. 研究対象

“交流”とは「ちがった系統のものが互いに入りまじること。また、入りまじらせること。」である。²⁾そこで本研究では目的の異なる人と人がモノ・コトを共有し、コミュニケーションとする場所を交流拠点と定義する。またバス待合所においてそのような交流が生まれるためには、待合・乗り換えの機能を持つ交通拠点に交通以外の交流機能を複合化することが必要であると考ええる。（図1）

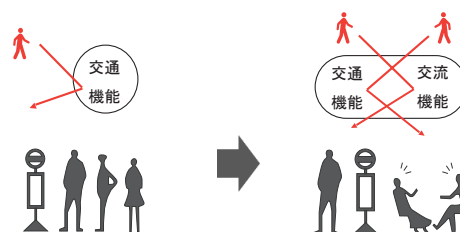


図1 複合化によるバス待合所の交流の変化

バス、バス待合所、バス停、バスターミナルでキーワード検索を建築専門誌「新建築」「商店建築」「学会選集」で行い、バス交通に関する建築事例を収集した。さらに今回の研究ではバスに着目するため、大量輸送を伴う電車・飛行機・船等による集客効果などを考慮することを避け、駅・空港・港等施設と併設されていないバス交通のみの施設であるもの（例：駅前バスロータリーは除く）に絞った。その中からさらにバス待合機能以外の用途が複合化され、それらが同一敷地内にあるものであり、且つ2023年3月31日時点で現存しているものといった条件を加え、最終的に残った以下の4事例を分析する。



a. ひがしちちぶ 和紙の里



b. 盛岡バスセンター



c. 山中湖村平野バス待合所



d. ナギテラス

4. 調査方法

分析は大きく3つの方法を使う。1つ目は公開されている資料をもとに図面分析や立地条件などから空間分析をする。2つ目は運営形態についてまちづくり関係者の方、施設の運営者の方への取材と書面での回答頂いたものをもとに分析を行う。3つ目は視察に伺い、その地域の特性やバス待合空間の使われ方・規模感の把握など実際に生で感じた情報と照合する。

収集した事例について、バス待合所空間とその他の機能空間との構成を分析し、3つのパターンに分けた。(図2)

(※その他の機能：トイレ・観光案内・物販・宿泊・公衆浴場・集会室などとする。)

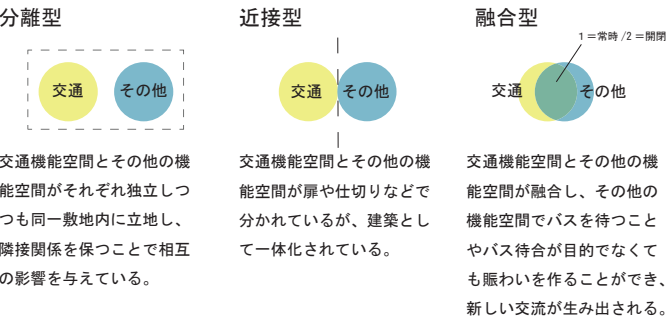


図2 空間構成のパターン化

5. 結果

	a. ひがしちちぶ 和紙の里 ³⁾	b. 盛岡バスセンター ⁴⁾	c. 山中湖村平野 バス待合所 ⁵⁾	d. ナギテラス ⁶⁾
空間構成	分棟型	近接型	融合型	融合型
総人口(人)	2,709	289,731	5,179	5,578
年少人口	173	33,602	606	736
生産人口	1,275	167,894	2,822	2,822
老年人口	1,261	80,035	1,731	1,977
地理的特徴	中山間地域 豊かな自然	県庁所在地 豪雪地帯 豊かな自然	中山間地域 富士山 山中湖 豊かな自然	中山間地域 広戸風 ため池 豊かな自然
歴史・文化	和紙「細川紙」	歴史的建造物 多様な食文化 工芸品	国際観光 リゾート地	アート 横仙歌舞伎
交通手段	自動車・バス など	徒歩・自動車 バスなど	自動車・バス など	自動車・バス など
立地	山に囲まれている	国道沿い 市街地	県道沿い 交差点前	国道沿い 役場前
所在地	埼玉県 秩父郡 東秩父村	岩手県 盛岡市 中ノ橋通	山梨県 南都留郡 山中湖村平野	岡山県 勝田郡 奈義町
最低平均気温	0.8℃	-2.5℃	-1.2℃	1.7℃
最高平均気温	25.0℃	23.2℃	21.7℃	25.6℃
竣工	2017年	2022年	2018年	2019年
主要用途	農産物直売所 飲食店 バス待合所	バス待合所 ホテル 物販店舗 公衆浴場	バス待合所 観光案内所	バス待合所 観光案内所 店舗
敷地面積	1919.72m ²	3,128.39m ²	1090.15m ²	1,959.84m ²
建築面積	684.61m ²	2,428.86m ²	126.27m ²	273.62m ²
延床面積	647.50m ²	3,886.75m ²	105.83m ²	323.04m ²
階数	地上1階	地上3階	地上1階	地上2階
最高高さ	6989mm	13,860mm	4678mm	8,011mm
駐車場	132台	2台※連携駐車場あり	10台ほど	10台
駐輪場	あり	あり	あり	あり
主体構造	木造	鉄骨構造	木造	木造 一部鉄骨構造
運営時間	9:00-17:00 (店舗によって異なる)	バス待合室・ 発券窓口 6:00-22:30	9:30-17:30 (月、火、 金は11:45- 12:45 閉館)	9:00-17:00 ※バス待合所 6:45～21:00

運営者	農業協同組合 民間事業者	盛岡市・バス 事業者・民間 事業者	観光案内団体	奈義町役場・ 観光案内団体
バスの種類	民営バス	高速バス・路 線バス	高速バス・路 線バス・周回 バス	市営バス・民 営バス
路線数	2路線	20路線	3路線	2路線
運航頻度	大体1時間 に1本	頻繁	大体1時間 に1本	大体1時間 に1本
主な利用者	観光客 通勤・通学者 など	お年寄り 若者 など	観光客 地域住民	学生 地域住民 など
背景	運転手不足	旧施設の 老朽化 人口流出 など	旅行動態の変 化、バス路線 の拡大	空き地の再活 用 など
目的	バスのハブ化 による地域活 性化、地域産 業の発展	人と地域の魅 力をつなぐ 拠点	かつての中心 を取り戻す歴 史と未来が連 続する新しい 風景	情報・交通・ 交流の拠点
方法	・リニューア ル ・農産物直売 所の移転 ・地域産材 の利用	・建て替え ・地域産材の 利用 ・大屋根 ・賑わい施設 の充実	・三角木軸グ リッド ・大屋根 ・観光案内機 能	・既存の2つ のバス停合併 ・気軽に利用 できるレンタ ルスペースな どの複合化
行事 イベント	文化フェス ティバル	地域交流イベ ントなど	ジャズフェス ティバル	親子交流イベ ント
効果	賑わいの創出	賑わい創出 歩行者の増加	人が集まるよ うになった。	人が集まるよ うになった。

図3 分析結果一覧表

まず所在地に注目すると共通点としてa、c、dの事例は人口規模が小さく、徒歩圏での移動が厳しい中山間地域にある。地域毎にみると、寒暖差の大きい事例cや豪雪地帯の事例bは室内の待合空間が広く取られた計画となっていることや、事例dは高い耐風性能をもつ耐力壁を採用するなどそれぞれの気候特性に合わせた対応をとっている。運営面では共通点として観光案内機能と休憩機能が設けられ、地域イベントも行われている。事例ごとにみると、事例cは観光協会と旅館民宿組合が共に運営を行うことで観光事業としてのまちへの人の回遊性を促している。事例dは積極的な市民の交流活動に力を入れており、運営体制がまちへの人の流しかたに影響を与えていることが分かる。

6. まとめ・展望

今回の研究では4つの事例から交通拠点がその他の機能を複合化することによる地域の交流拠点への可能性を探るため様々な観点からわかったことを整理した。全体の共通点として空間構成は積雪や強風などの地域の気候条件によって影響を受けていることが分かった。分棟型く近接型く融合型になるにつれ、交流の活発化が見られた。融合型は面積を有効活用でき、運営管理も少人数・少ない予算で済むことなどから、中山間地域における小さな拠点に対して有効だと考える。本研究は複数の地域拠点、交通拠点をつなげて面的な広域地域活性化を目指す「micro public network」⁵⁾の提唱の基礎的研究として、これからの縮小化社会において交通拠点が新たなまちの人々の結びつき方の変化や地域活性化に寄与するものとする。

注、*1 MaaS = “Mobility as a Service”

参考文献

¹⁾ 田中耕市 / 中山間地域における公共交通の課題と展望 / 経済地理学年報第55巻 2009年 pp. 33-48

²⁾ 広辞苑より

³⁾ 道の駅ひがしちちぶ和紙の里 新建築2017年11号138p

⁴⁾ 盛岡バスセンター 新建築2023年1号148p

⁵⁾ 山中湖村平野バス待合所・観光案内所 新建築2018年9号194p

⁶⁾ 奈義町多世代交流広場 ナギテラス 新建築2019年1号88p